

## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年2月14日

上場会社名      ディーエムソリューションズ株式会社      上場取引所 東  
 コード番号      6549      URL    http://www.dm-s.co.jp  
 代表者          （役職名） 代表取締役社長                                  （氏名） 花矢 卓司  
 問合せ先責任者      （役職名） 執行役員管理部長                                  （氏名） 吉田 慎一郎      TEL 0422-26-7147  
 四半期報告書提出予定日      2020年2月14日      配当支払開始予定日      —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無                                  : 無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2020年3月期第3四半期の業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

#### （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	10,114	12.7	141	△42.6	141	△42.3	96	△43.1
2019年3月期第3四半期	8,973	16.4	246	46.3	245	48.6	169	65.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	38.95	36.99
2019年3月期第3四半期	68.78	64.26

#### （2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2020年3月期第3四半期	4,270		1,680		39.3	
2019年3月期	4,311		1,584		36.6	

（参考）自己資本      2020年3月期第3四半期      1,676百万円      2019年3月期      1,579百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期（予想）				—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2020年3月期の配当は未定です。

### 3. 2020年3月期の業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,995	14.9	270	△10.0	268	△10.2	156	△21.7	63.29

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (4) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期3Q	2,478,000株	2019年3月期	2,478,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	93株	2019年3月期	93株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期3Q	2,477,907株	2019年3月期3Q	2,465,607株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第3四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などにより、景気は緩やかな回復基調が続いてきましたが、海外経済の不確実性の影響等により、先行き不透明な状況で推移しました。こうした状況の中、当社の主たる事業領域であるダイレクトメール市場の取引高は前年同期比微減、インターネット広告市場は前年同期比約2%の伸び（注）を示しており、今後もしばらくは同様の傾向が継続するものと推測されます。

このような事業環境の中、当社はダイレクトマーケティング実施企業に対して、マーケティングの各局面において最適なソリューションを提供するべく努めてまいりました。また、積極的な人材採用を行い、営業力及び提供サービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当社の当第3四半期累計期間における売上高は10,114,575千円（前年同期比12.7%増）、営業利益は141,569千円（前年同期比42.6%減）、経常利益は141,450千円（前年同期比42.3%減）、四半期純利益は96,502千円（前年同期比43.1%減）となりました。

（注） 経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」（2019年11月分確報値）より、「折込み・ダイレクトメール」及び「インターネット広告」の2019年10月～11月売上高及び前年同期売上高を用いて算出。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

#### i) ダイレクトメール事業

ダイレクトメール事業におきましては、企画制作からデザイン、印刷、封入・封緘作業を一括して手がけるワンストップサービスの提供、郵便やメール便のスケールメリットを活かした提案型営業を積極的に展開いたしました。また、日野フルフィルメントセンターを中心に、市場の拡大が続いている宅配便等の小口貨物の取扱いの強化に努めました。

この結果、新規顧客の開拓及び既存顧客からの受注が堅調に推移し、売上高は8,901,973千円（前年同期比11.4%増）、セグメント利益は512,656千円（前年同期比8.8%増）となりました。

#### ii) インターネット事業

インターネット事業におきましては、SEO（注）1. と併せて、コンテンツマーケティング（注）2. に注力し、コンサルティング型マーケティングサービスの提供を強化しました。また、これまで培ったSEOのノウハウとWebサイトのコンテンツ制作ノウハウを活かしたパーティカルメディアサービス（注）3. にも引き続き注力いたしました。この結果、売上高は1,212,601千円（前年同期比23.9%増）となった一方で、広告宣伝費の増加等の要因により、セグメント利益は67,152千円（前年同期比54.5%減）となりました。

（注） 1. SEOとは検索エンジン最適化（Search Engine Optimization）の略称で、検索エンジンの表示順位判定基準（以下、アルゴリズム）の解析結果に基づき、検索エンジンが高い評価をするWebサイト構造に最適化することを意味します。

2. コンテンツマーケティングとは、顧客および顧客となり得るユーザーに対して、有益な情報を各種コンテンツによって提供し、広告主が目標としている成果に結びつく行動を促すマーケティング施策です。

3. パーティカルメディアサービスとは、特定の分野に特化した自社Webサイトの運営を通じて、利用者へ有益な情報や各種サービスを提供するサービスです。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産の残高は4,270,300千円となり前事業年度末に比べ、40,964千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の増加159,073千円、受取手形及び売掛金の増加40,631千円があった一方で、関係会社株式の減少242,768千円があったことによるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は2,589,671千円となり前事業年度末に比べ、137,466千円減少いたしました。これは主に、短期借入金の増加150,000千円があった一方で、長期借入金の減少201,879千円及び未払法人税等の減少76,705千円があったことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は1,680,628千円となり前事業年度末に比べ、96,502千円増加いたしました。これは、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加96,502千円によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	457,105	616,178
受取手形及び売掛金	1,542,204	1,582,835
貯蔵品	35,400	25,816
その他	76,547	94,640
貸倒引当金	△5,673	△6,190
流動資産合計	2,105,582	2,313,281
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	265,314	264,948
機械及び装置（純額）	293,988	260,261
車両運搬具（純額）	3,849	2,423
工具、器具及び備品（純額）	72,590	64,848
土地	668,606	668,606
リース資産（純額）	11,027	9,182
有形固定資産合計	1,315,377	1,270,270
無形固定資産		
のれん	411,767	397,402
ソフトウェア	9,972	22,080
ソフトウェア仮勘定	2,700	29,105
無形固定資産合計	424,439	448,587
投資その他の資産		
関係会社株式	242,768	—
その他	247,422	262,570
貸倒引当金	△24,325	△24,409
投資その他の資産合計	465,865	238,160
固定資産合計	2,205,682	1,957,018
資産合計	4,311,265	4,270,300

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	914,354	915,371
短期借入金	—	150,000
1年内返済予定の長期借入金	269,172	269,172
未払法人税等	76,705	—
賞与引当金	—	16,970
その他	403,054	382,659
流動負債合計	1,663,286	1,734,173
固定負債		
長期借入金	1,045,928	844,049
その他	17,923	11,449
固定負債合計	1,063,851	855,498
負債合計	2,727,138	2,589,671
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	227,387	227,387
資本剰余金	153,886	153,886
利益剰余金	1,198,713	1,295,216
自己株式	△130	△130
株主資本合計	1,579,856	1,676,358
新株予約権	4,270	4,270
純資産合計	1,584,126	1,680,628
負債純資産合計	4,311,265	4,270,300

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	8,973,245	10,114,575
売上原価	7,362,839	8,264,514
売上総利益	1,610,406	1,850,061
販売費及び一般管理費	1,363,867	1,708,492
営業利益	246,539	141,569
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	1	1
受取手数料	1,182	834
助成金収入	—	577
物品売却益	—	863
その他	472	503
営業外収益合計	1,659	2,783
営業外費用		
支払利息	2,625	2,731
その他	298	171
営業外費用合計	2,923	2,902
経常利益	245,275	141,450
特別損失		
抱合せ株式消滅差損	—	2,298
特別損失合計	—	2,298
税引前四半期純利益	245,275	139,152
法人税等	75,691	42,650
四半期純利益	169,583	96,502



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算 書計上額 (注) 2
	ダイレクトメール 事業	インターネット 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,994,436	978,809	8,973,245	—	8,973,245
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,994,436	978,809	8,973,245	—	8,973,245
セグメント利益	471,153	147,506	618,660	△372,121	246,539

(注) 1. セグメント利益の調整額△372,121千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「インターネット事業」において、2018年11月21日付で株式会社HANABISHIからの事業譲受を実施したことに伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期累計期間において、434,227千円であります。

II 当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算 書計上額 (注) 2
	ダイレクトメール 事業	インターネット 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,901,973	1,212,601	10,114,575	—	10,114,575
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,901,973	1,212,601	10,114,575	—	10,114,575
セグメント利益	512,656	67,152	579,809	△438,239	141,569

(注) 1. セグメント利益の調整額△438,239千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。